

エスカレーター 障害ある人らに危険

急ぐ人のためにエスカレーターの片側を空ける——。都市部では定着した慣習に、困難を感じている人たちがいる。埼玉県では立ち止まって利用することを義務づける条例ができ、鉄道会社なども呼びかけるが、現状はほとんど変わっていない。

片側空け ずに止まって

①上りエスカレーターで左側に乗る川瀬正広さん。左半身まひのため右側から乗るが、「急ぐ人用」の右側を空けるため、左側へうつる＝東京都練馬区
②「歩かず立ち止まろう」キャンペーンのポスター＝JR東日本提供
③エスカレーターマナーアップ推進委員会では、立ち止まらざるを得ない人向けに、「わけあってこちら側で止まっています」と書かれたキーホルダーを作製＝東京都理学療法士協会提供

埼玉県和光市の会社員、川瀬正広さん(49)は40代前半、脳卒中で倒れた。リハビリを続け、杖を使わず歩けるようになったが、左手と左足にまひが残り、右側から乗らざるを得ない。だが、「右側に立ち止まる『勇氣』はありません」。

命の危険を感じたこともある。半年ほど前、別の下りのエスカレーターで左側へ移動する際、追い抜いた男性のバッグが体に当たってよろけ、1段階み外したところまで何とか体勢を立て直した。「転落事故」の文字が頭をよぎったという。

協会の調査によると、エスカレーターで転んだり、挟まったりする事故は、2018～19年に全国で1550件あった。場所は交通機関の734件が最多で、ショッピングセンターの353件が続いた。

「社会の『片側空け』の習慣が変わらないならば、多少のリスクはあっても、いまの乗り方を続ける方がよいと思っています」

だが、そもそもエスカレーターは「歩くこと」を前提にした構造にはなっていない。日本エレベーター協会によると、例えば小学校の階段と比べると、幅が狭く、段差が高めだという。協会のホームページでは、立ち止まるとの利用を呼びかける。

見直す動きもある。東京都理学療法士協会では約5年前にエスカレーターマナーアップ推進委員会を立ち上げ、立ち止まって乗るよう呼びかけ始めた。鉄道会社や自治体と連携したキャンペーンも実施している。

埼玉県では10月、条例が施行され、利用者は「立ち止まった状態でエスカレーターを利用しなければならぬ」と義務づけられた。罰則はない。エスカレーターの管理者は、立ち止まって乗るべきだと周知する義務も課された。

東京都大田区の主婦、宮田千寿子さん(65)は、改善に向けて小さなアクションを起こしている。きっかけは1年前の体験だ。

右足を痛め、都内の駅で左手に杖を持ち、エスカレーターに右側に立った。通行の妨げにならないようにと前方の1段を空けていたが、男性に追い抜きざま、チツと舌を鳴らされ、「邪魔なんだよ、ババア」と罵声を浴びせられた。恐怖心と憤りの両方がこみ上げたという。

足は回復し、杖は使わなくなったが、人が少ない時を見計らって、あえて右側に立つようになった。「恐怖心はあります。でも、事故を減らすために『止まって乗る』こと

が当たり前になればと行動しています」

内閣府障害者政策委員会の委員長で、視覚障害がある石川准・静岡県立大教授(障害学)は、「『片側空

け』の習慣は、足腰が健康な人には便利でしょうが、障害があったり、子ども連れであったりする人にとっては不利益につながりやす

い。片側が空いたままだと

エスカレーターで運ぶ合計人数は減る。公共の場であれば、リスクを減らすことを優先すべきでは」と話した。

エスカレーターで運ぶ合計人数は減る。公共の場であれば、リスクを減らすことを優先すべきでは」と話した。



エスカレーターで運ぶ合計人数は減る。公共の場であれば、リスクを減らすことを優先すべきでは」と話した。